

データで見る経済の動き

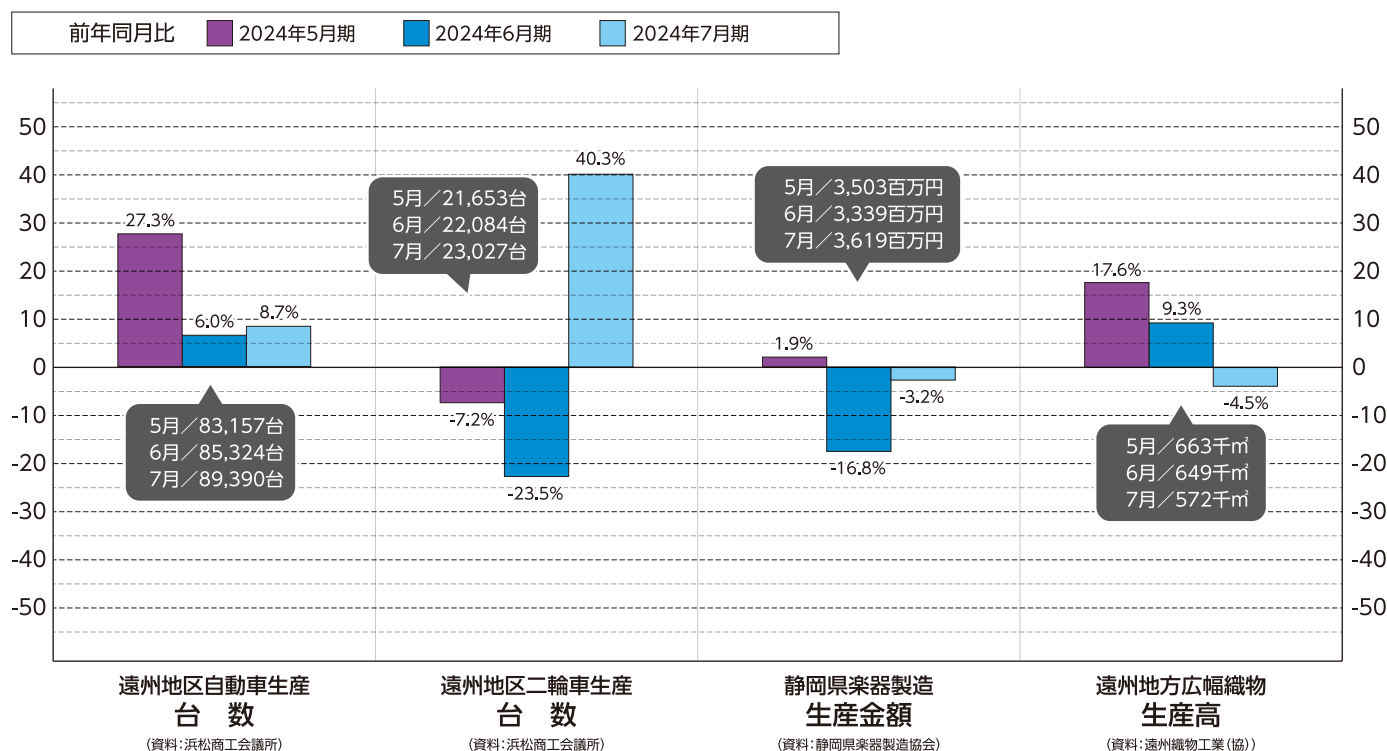
浜松地域の経済動向

2024年
7月を中心に

製造業は自動車为好調を維持しているが、楽器・繊維が前年同月を下回った。非製造業は円安の影響からインバウンドが増加している。

自動車の生産台数は、軽自動車と小型車が好調を維持している。二輪車は3カ月ぶりに前年同月を上回った。楽器は好調だったピアノが落ち込み2カ月連続で前年同月を下回っている。タクシー乗車人員は10カ月連続で前年同月を下回り、配車アプリの強化など稼働率の向上を図っている。ホテルの稼働率は円安の影響を受けてインバウンドが増加し、外国為替は円安が更に進行して158円を超えた。

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2024年7月における遠州地区の自動車生産台数は前年比8.7%増の8.9万台となり、6カ月連続で前年同月を上回った。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は13.6%増、小型四輪車は3.5%増、普通自動車は44.6%減となっている。軽自動車と小型車が好調を維持している。国内向けは7.5%増で6カ月連続、輸出は13.0%増で4カ月連続の増加となっている。輸出は小型車の欧州への輸出が増加の様様。

二輪車



2024年7月における二輪車生産台数は前年比40.3%増の2.3万台となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。排気量別では、50cc以下46.7%増、51cc～125cc以下180.7%増、126cc～250cc以下28.9%増、251cc以上は21.3%増となった。国内向けは35.7%増、輸出は40.8%増といずれも前年同月を大きく上回った。

楽器



2024年7月における楽器生産金額は前年同月比3.2%減の36.1億円となり、2カ月連続で前年同月を下回った。中国経済の低迷などによりピアノは落ち込んでいるが、電子・電気ピアノおよび管楽器の生産が後押しとなり生産金額は36億円を超えた。分野別生産高を前年同月と比較してみると、ピアノ25.5%減、電子・電気ピアノ12.7%増、電子オルガン5.9%減、管楽器14.5%増となった。

繊維



2024年7月の生産高は前年同月比4.5%減の572千㎡となり、1年ぶりに前年同月を下回った。コロナが5類に移行して以降、対前年比は回復基調にあったが、その需要にも一服感が出ている。発注も1回にとどまり、追加発注を期待できず、生産量が減少することが懸念される。また、原材料費や染色加工費、電気代などの上昇が続いており、収益圧迫要因となっている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2024年7月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比4.8%減の30.7万人となった。運輸収入は、昨年秋の運賃改定効果があり前年比増だが、利用人員は前年比減となる傾向が続いている。配車アプリの機能を強化するなど、タクシー稼働率の向上を図っている。

観光

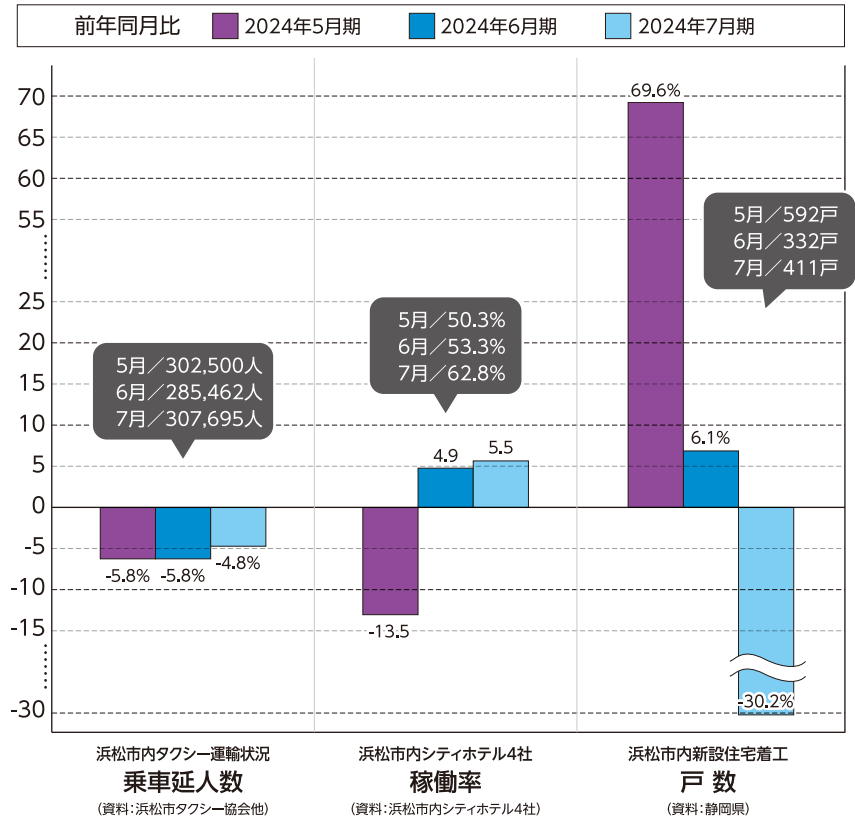


2024年7月の浜松市内ホテルの稼働率は62.8%であり、4カ月ぶりに60%を超えた。特に団体客のインバウンドが好調であり、中国人がその内8割を占めるなど顕著に回復している。個人客は、観光・ビジネスとも予約が伸び悩む状況であった。

住宅着工



2024年7月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比30.2%減の411戸となった。内訳をみると、持家は204戸、貸家148戸、分譲住宅は59戸だった。前年同月との比較では、持ち家が26戸、貸家が8戸、分譲住宅が144戸の減少となった。分譲住宅の大幅減少は、昨年の分譲マンション132戸が影響している。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2024年7月の有効求人倍率は前年同月比0.13ポイント下降の1.13倍となったが、前月との比較では0.02ポイント上昇した。全国(1.24)との比較では0.11ポイント下回っているが、静岡県(1.09)との比較では0.04ポイント上回った。夏季のイベントなどに備えサービス業を中心に求人が増加が見受けられる。

倒産企業



2024年7月における静岡県信用保証協会浜松支店の代位弁済件数は31件、金額は4.0億円だった。前年同月との比較では件数が1件、金額が0.7億円の増加となった。ゼロゼロ融資の返済開始と円安による仕入れ価格の増加、人手不足が重なり代位弁済は増加傾向にある。

ガソリン価格



2024年7月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり176.1円で前年同月との比較では4.6円増加し、8カ月連続で175円を上回った。原油価格の高値圏推移は今後も続く模様。

外国為替



2024年7月の外国為替は1ドル158.06円となり、160円間近となった。前年同月との比較では16.85円円安となり、今年1月から7カ月連続で円安が続いている。輸出企業にとっては収益の押し上げに貢献しているが、輸入材料などの支払いコストの上昇は依然続いている。

